

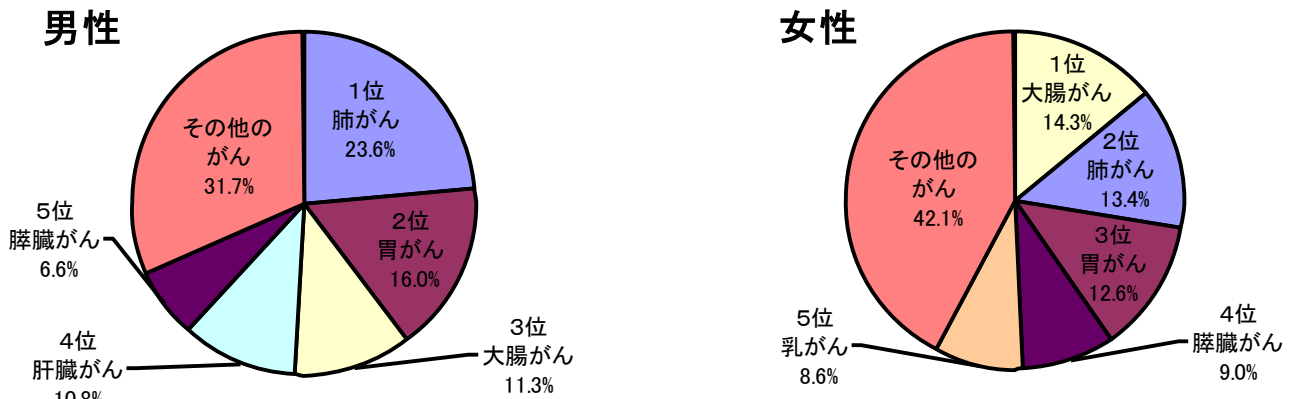
6回シリーズ 「がんを見つけ出す人間ドック・健診」

シリーズ第2回 「がんを見つけ出す検査 ～画像検査について～」

(文責：進藤)

わが国におけるがんの死亡数は、平成20年は前年に比べ6,495人増加し、34万2963人で3人に1人ががんで亡くなっています。死因順位は、昭和56年以来第1位です。また、年齢階級別死亡率においても40歳以上では、がんが1位となっており他人事とは言えない身近な病気です。

～部位別にみたがんの死因順位(平成20年)～



資料 2010/2011年「国民衛生の動向」

今回は、皆さんに「がんを見つけ出す画像検査について」お伝えします。



超音波検査 (臨床検査技師が検査を行います)

超音波検査は、機器から発信した超音波が、臓器に当たって返ってくる反射波を利用して画像化したものです。がんの有無はもちろんのこと、大きさや個数、血流や周囲の臓器の状態をみる事ができます。超音波は、人間の耳には聞こえない高い周波数の音の振動波ですので、安全性が高く放射線被曝を伴わない負担の少ない検査です。



上腹部超音波検査

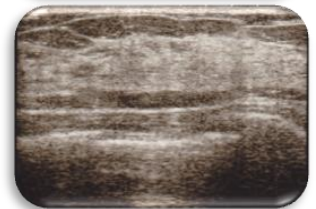
肝臓、胆のう、膵臓、腎臓、脾臓などのがんを発見することができます。しかし超音波は、骨や空気、脂肪により十分な観察ができない部分があります。特に膵臓は、背側に近いため観察し難い部位です。

下腹部超音波検査

膀胱、卵巣、子宮などのがんを発見することができます。
*当センターでは、経直腸的超音波検査、経膣的超音波検査は行っていません。

乳房超音波検査

乳がんを発見することができます。乳房のしこり、乳管や腋の下のリンパ腺の拡張などがわかります。乳がんの場合には、しこりの凸凹や内部の不均一な濃度が確認できます。
*当センターでは、女性の臨床検査技師が検査を行います。



エックス線検査

(診療放射線技師が検査を行います)

エックス線検査には、造影剤を使わない「単純撮影」と、造影剤を使った「造影検査」があります。「単純撮影」は、胸部エックス線写真や乳房撮影（マンモグラフィ）などが該当します。「造影検査」は、バリウムや空気を使用して胃や大腸など「単純撮影」では写り難い臓器を調べる方法です。

*放射線による被曝線量がご心配な方は、診療放射線技師にお尋ね下さい。

胸部エックス線検査

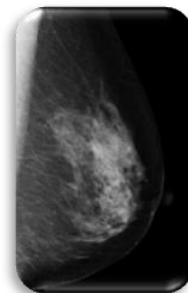
肺がんを発見する基本的な検査です。ただし、がんが心臓の裏側や縦隔の中などにあると影が重なって見つけ難くなります。



乳房エックス線（マンモグラフィ）検査

乳がんを発見することができます。乳房内にしこりがあれば、その形や大きさ、広がりなどがわかります。また、触診ではわからない小さな腫瘍や石灰化した病変を発見するのに優れています。乳房を圧迫装置で挟んで撮影するため、多少の痛みを伴うことがあります。

*当センターでは、女性の診療放射線技師が検査を行います。



上部消化管（胃部）エックス線検査

バリウムと発泡剤を飲んで、食道、胃、十二指腸を映し出しがんを発見することができます。

下部消化管エックス線検査

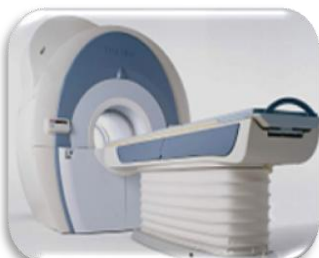
肛門から大腸内にバリウムと空気を入れ、直腸から盲腸までを映しだしがんを発見することができます。



胸部ヘリカルCT（コンピュータ断層撮影）検査

(診療放射線技師が検査を行います)

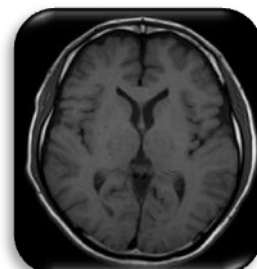
肺がんを発見することができます。体の廻りをらせん状に撮影し、胸部エックス線検査とは異なる方向から断面像をとり、胸部エックス線検査では発見しづらかった心臓や骨に隠れた微細な（1 cm以下）病変（肺野型肺がん等）を発見するのに優れています。



脳MRI（磁気共鳴画像）検査

(診療放射線技師が検査を行います)

脳腫瘍を発見することができます。磁気を利用して脳の断面や脳動脈を映し出す検査で、骨による画像への影響がないため骨に囲まれた臓器の検査に優れています。放射線による被曝はありませんが、磁気を利用しているため体内に磁気に影響を受ける金属やペースメーカーなどの機器が入っている方は、検査を受けられない場合があります。



胃内視鏡検査

(医師が検査を行います)

食道、胃、十二指腸などのがんを発見することができます。直径1 cm程の細長い管の先にレンズをつけた内視鏡（ファイバースコープ）を鼻または口から入れて検査をします。医師が必要と認めた場合は、組織の一部を内視鏡の鉗子で採取して調べる検査（生検）を行うことができます。



*ご自身の健康は、他に代え難いものであり最大の財産です。それぞれの画像検査の特徴を知った上で、ご自身に合った検査を受けられることをお勧めします。